

書塾の仲間たち

第255回

研究学園こども書道教室（茨城県つくば市）



●書塾からひとこと●

当書塾は筑波山の麓にあり、道を歩けば田んぼや畑などの自然豊かな風景に溢れ、夏の夜などはカエルの合唱が響いています。

当塾には小学生から高校生までの生徒が学びに來ています。日本の伝統的な書道の技術や美学を伝える場所として生徒の個性に合わせ指導することを心がけています。月刊「書写書道」誌は学べることが理論的かつ簡潔に書かれており、生徒が自ら注意点を読み込み、練習に役立てている姿が見受けられます。

昔と比べ最近はずを紙に書くことがめっきり減ってしまいましたが、私は書道を学ぶことによる長所はいくつかあると考えており、特に左記の四点を意識して練習に取り組んでいます。

- 一、集中力と忍耐力の向上 毎月変わる競争課題の練習
- 二、美的感覚の発達 競争課題やその他古典から得られる美意識
- 三、自己表現の向上 白い紙に表現する（無から有を生み出す）ことの凄さ
- 四、ストレスの軽減 稽古に集中して無になる時間の大切さ

また、日本の四季を感じながら練習できるよう、教室の壁の一面にプロジェクトで四季の動画を流しています。生徒は集中している中で映像はあまり気にしていないと思いますが、作品を書き終え、ほっと一息ついて顔をあげた際に美しい風景が目に入れば、少しは爽やかな気持ちになるのではと思っています。

毎月の競争のみならず、全国展や書初め大会にも少しずつですが挑戦しています。全国の「書塾の仲間たち」と一緒に学べる機会に感謝し、これからも日々の教室での時間を大切にしていきたいと思っています。

研究学園こども書道教室 根岸 智子

※書塾に連絡したい方は事務局へお問い合わせください。

花なの

小四
萩原陽咲



書道で学んだことを生活にもいかしたい

長野県松本市立鎌田小学校四年 萩原 陽咲

小学校二年生のときに書道を始めてから二年がたちました。私が書道を始めた理由は二つあります。一つ目は字をきれいに書きたいと思ったからです。二つ目は三年生になったら習字のじゅ業が始まるので、毛筆が上手になりたいと思ったからです。

書道を始めてよかったことは、学校の初めての習字のじゅ業で、筆で字を書くことになっていたので上手な字を書けたことです。いつも字を書くときに、上手に書くことを考えながら取り組めるようになったのは書道のおかげです。

書道で何度も同じ字を書いて、きれいな字が書けるまで練習して、その字を見て、どれが一番上手なのか、どこを直した方がよいのかを考えることをとても楽しんでいます。

私のこれからの書道での目標は、毛筆で字を書くときに、筆をおさずに書くこと、また筆をやさしく持ち、太い線やはらいがきれいに書けるようになることです。どんな字でも線を一画一画きれいに書いて、形をそろえて書けるようにになりたいと思います。そして気持ちを集中して、しせいをよくして書きたいです。この目標に向かって、できてもできなくても、たくさん書道教室に通って、たくさん字を書いて、書道を楽しみたいです。そして書道で学んだことを、いつもの自分の生活にいかしたいです。

私と書写書道 第255回

愛

小六 小林紗優



今の課題は忍耐力です

信州大学附属松本小学校六年 小林 紗優

私が書道を始めたきっかけは、一年生のときに書写の授業で書いた字が表彰されたことでした。当時そのことがとてもうれしくて、もっと上手に書けるようにになりたいと思ったので教室に通い始めました。

もっと上手に書きたい、と意気込んで習い始めましたが、最初のころは初めて使う筆に苦戦したり、教室の雰囲気（ふんいき）に緊張してしまい、なかなか満足のいく字が書けませんでした。悔しさ（なみだ）のあまりに涙を流してしまったこともありました。そんな中でも先生に根気よく教えていただけて、とても感謝しています。

根気よく書道を続け練習を重ねてきたおかげで、うれしいこともあります。それは少しずつ前よりも自分で納得のいく字が書けるようになってきたことです。また、月刊「書写書道」誌の競書で進級できたときにはとても達成感があります。学校の友だちにも「きれいな字だね」と言われると、うれしい気持ちでいっぱいになり、書道を続けてよかったと思います。これからの自分の課題は、忍耐力（にんたいりよく）です。これからもっと難しい字に挑戦するために、何度も練習することが大切だと思います。思うように書けなくても、すぐ諦め（あきらめ）たりせずに取り組もうと思います。もっと上手にお手本のような字を書けるように忍耐強く頑張ります。